

まちひとしごと

Vol. 45

(株)フォレストイノベーション
代表取締役社長 大森美秋 さん



人と人とのつながりで 夢を持てる町に

今年1月から倶知安青年会議所（以下倶知安JC）で理事長を務める(株)フォレストイノベーション代表取締役社長の大森美秋さんに話を伺った。

自然の中で木々に触れる時間が好きだと話す道南知内町出身の大森さんは、曾祖父が同町内で林業を行うために立ち上げた会社の4代目。同社は約20年前に倶知安町内で飲食業に参入し、大森さん自身も生活の拠点をこの町に移す。その後、同社の真狩村への事業進出を機に、地元の方の勧めで商工会へ加入し、同村商工青年部に所属した。

「平成28年度からは2年間にわたり北海道商工会連合会青年部の会長として全国組織の理事を務め、各種事業の企画運営はもちろん、要望活動を行うなど貴重な経験を積むことができました」

当時は会長として可能な限り道内各地の商工会を見て回り、自らの目と耳で地域の実情を知ることが大切にしてきたと話す。

「人口減少など、大都市に比べさまざまな面で資源が乏しい地方において、地域の課題と懸命に向き合う若手経営者らの姿を目の当たりにし、彼らから話を聞けたことは、とても大きな刺激になりました」

倶知安JCの理事長就任にあたっては、これまでの経験を活かし、周りにやらされるのではなく、自らがわくわくするようなことを考え実行し、組織が夢を持つことで、これまで以上に魅力的な町にしていきたいと話す。

「昨年12月に、駅前公園でのクリスマスイルミネーション事業が急ぎよ決まりましたが、会員の減少が進む倶知安JCの力だけでは実施が困難でした。そこで、自らも参画する商工会議所青年部と協力し、短い準備期間でしたが、何とか実現することができました」

人もお金も十分とは言えない中で、組織の枠組みに捉われず、地域として連携・協力を図ることが、これからはますます重要になるのではないかと大森さんは話す。

「私が子どもの頃は、隣近所との距離が近く、小さなコミュニティがそれぞれ助け合いながら、暮らしを豊かにしていたように思います。倶知安町は多様な人々が暮らす町。周りの人を巻き込みながら、状況の変化に対応しつつ、人と人との結びつきを強めることが必要です」

大森さんは、周りで起こることを少しでも自分のこととして考えることで、人と人の距離が縮まるのではないかと話す。

「それぞれが変化に対応しつつ、守るべきものは守り、良い取り組みはしっかりと受け継ぎながら、続けていくこと、今起きていることをひとごとにしらないことが町の未来に向けて大切なのではないのでしょうか」

※クリスマスイルミネーション事業については10ページに記事を掲載

※まちひとしごとは不定期連載です